

平成29年度

進取の精神 チャレンジプログラム

(地方創生活動部門)

成果報告書



平成29年度 進取の精神チャレンジプログラム (地方創生活動部門)

成果報告書

(1) 八重山高原星物語2017学生運営委員会 『八重山高原星物語2017』	1
(2) T-land KUFSA 『留学生＋日本人学生による種子島のInbound活性化および地域資源 発掘調査』	8
(3) グルーロ 『西出水！なこよかひっとべ応援隊(略称:西出水応援隊)(仮)』	17
(4) ヤマケン 『ベル活(ベルマークにすればトナーカトリッジを離島教育教材にできる説)』	25
(5) KAGOらぼ 『かごんまよかとかプロジェクト』	39

概要

進取の精神チャレンジプログラムは、鹿児島大学学生憲章（平成 22 年 11 月 15 日制定）の趣旨に則り、学生自らが企画・運営・実施する様々な活動の支援を通じて困難な課題に果敢に挑戦し、実践していくことによって鹿児島大学における進取の精神を継承することを目的としています。

本学は地域に貢献する大学を標榜し、その取組を推進していますが、学生が進取の精神を発揮し、鹿児島県内自治体や企業などと連携した地域貢献活動を行いやすいよう、平成 28 年度から新たに「地方創生活動部門」を追加しました。

■応募資格

本学の学部学生及び大学院生の、個人またはグループとする。また、学生が主体であれば教職員と連携して応募することも可能。

■応募条件

- ①卒業論文、卒業研究で取り組む内容のものは含まない。
- ②実施期間内に終了できる単年度企画とする。ただし、複数年を要する企画の継続申請も可能とするが、次年度の予算を確約するものではない。
- ③「地方創生活動部門」については、課題解決に向け、自治体等と協働して活動する企画とする。
- ④物品、施設等については、貸与（借用）を原則とする。

■支援予定額

1 件につき上限 20 万円

■応募方法

所定の様式による企画書及び必要経費内訳書に必要事項を記入の上、学生生活課に提出すること。

■審査方法

- ①審査委員会を組織し、書類審査及びプレゼンテーションによる審査を行う。
- ②審査結果は、企画書に記載のメールアドレスに通知する。

■スケジュール（平成 29 年度）

応募受付期間 6月1日（木）～6月23日（金）
 審査期間 6月26日（月）～7月21日（金）
 結果発表 7月下旬
 実施期間 採択後～1月末日
 成果発表会 2月下旬予定

採択者の声

新しくチャレンジしてみたいこと、誰かと協力しながら解決させたい問題があったとしても、それを実際に取り組むにはとても勇気がいります。また、企画をしても資金が足りずに諦めなければならないこともあるかもしれません。

今年で2年目に入る私たちのプロジェクトも継続して取り組むかとても悩みました。しかし、大学が学生のチャレンジしたいことを募集し、そして応援するという企画はどこにもあるというものはありません。活動を継続的に進めていくため、ぜひ応募すべきだと思い、今年も進取の精神チャレンジプログラムに応募させていただき、そして採択していただきました。

私の取り組むプロジェクトは、普段の専攻とは関連性はほぼありません。大学で学ぶのであれば、専攻する学問を究めていくことはもちろん重要ですが、それとは別でしてみたいことや解決したい問題があるなら、まさに「進取の精神」で積極的に取り組んでいく姿勢も必要だと思います。

大学生である自分たちにできることは何か、求められていることは何かを常に意識しながら、進取の精神をもってプロジェクトに取り組んでいきたいと思っています。

KAGO らほ代表
法文学部 3 年 森下 彩絵



平成 28 年度 進取の精神チャレンジプログラム
地方創生活動部門 成果発表会のようす

平成
29
年度

進取の精神チャレンジプログラム 地方創生活動部門 採択プログラム一覧

かごんまよかとこプロジェクト

KAGO らぼ

私たちは社会人と学生の区切りや壁をなくし、学生の中に鹿児島で働くという選択肢をもってもらうきっかけ作りをしています。活動内容はキャリア支援系イベント「かごんまの hot な先輩と語る場」、県内就業魅力発信誌「かごんまが人」などです。これらを通して、鹿児島で働く社会人とつながりをもったり、人を通して企業を知ったりする機会を学生に提供していきたいです。



私たちの活動で、鹿児島で働くことに希望を持ってくれる学生が少しでも増えて欲しいと思っています。鹿児島県の学生と社会人のつながりの輪をどんどん大きく、そして楽しいものにしていきたいです。(英文学専攻3年 森下 彩穂)

八重山高原星物語 2017

八重山高原星物語 2017
学生運営委員会

鹿児島大学農学部附属加納入来牧場で開催される科学イベントです。鹿児島市と協力して実施しているイベントであり、当日は望遠鏡等の貸出公開に加え、鹿児島大学及び他大学の学生が建築川内市の方々が多数の科学実験ブースを出展します。今年度は8月12日(土)に実施しました。約3800人の来場者があり、ワークショップや星観察会などの体験コーナーに加えて、アンテナツアーや星空観望会も行い、大いに盛り上げられました。



鹿児島からは、星の観察会とワークショップが盛況で受けられ、当日までの準備や後援の準備がなかったと驚きました。今後も子供たちに科学的な楽しさを伝えられるように活動が盛り上がり続けたいです。(理学部3年 山崎 悠斗)

ベル活

(ベルマークにすればトナーカートリッジを鹿児島教育教材にできる説)

ヤマケン

現在、EPSON、キヤノン、ブラザー3社のプリンターで消費されるトナーカートリッジを回収することでベルマーク点数に変換することが可能です。そこで、大学内で消費されたトナーカートリッジを回収しベルマーク点数に変換し、鹿児島の教育教材購入の補助として、集めたベルマークをベルマーク教育助成財団に学校を指定し寄贈するという一連の支援の流れが実現可能が検討することになりました。



大学内でのトナーカートリッジの消費量や活動の支援の広げを把握することで、大学から地域への今後の支援の可能性が見えてくると思っています。(大学院理工学研究科2年 長瀬 佳)

西出水！なこよかひっとベ応援隊 略称：西出水応援隊（仮）

グルーロ

鹿児島県出水市には大学がなく、地域活性化に訪れた大人たちと学生の交流の機会がほとんどありません。そこで、出水市西出水地区にある、地区の人々のコミュニティ形成を目的とした「西出水盛り上げセンター」を拠点に、地区の人々と学生の長期的な「つながり」の形成を目的として、活動の企画を考えました。活動内容は、出水市でのフィールドワークや、地区の人々と学生の意見交換会、イベントの企画・運営です。



地域活動に興味がある学生と、いつも同じメンバーで活動している地域の大人が「つながり」ことで、地域に新しい風が吹き起こることを期待して、このプロジェクトを続けていきます。(教育学部4年 安山 穂穂)

留学生+日本人学生による種子島の Inbound 活性化および地域資源発掘調査

T-land KUFSA

鹿児島大学の留学生を直接種子島に送ることで、観光資源を留学生の視点から探り、種子島の国際観光化における課題点や改善点を見つけ出します。日本人だけでなく、外国人へのアピールが可能であるから、鹿児島県の国際化にも繋がると思われます。



せっかく鹿児島県に留学して来た学生にも島の魅力を伝えたい！伝えて欲しい！という想いのから、この活動を鹿児島大学留学生会（KUFSA）とコラボしました。今後の種子島のグローバル化に繋がるとして頑張っています。(大学院農学研究科2年 小森 健太)



平成29年度鹿児島大学 進取の精神チャレンジプログラム

『地方創生活動部門』 成果発表会



開催日:平成30年2月27日(火)
時間:9:00~10:45
会場:鹿児島大学学習交流プラザ
2階学習交流ホール
どなたでも参加できます。
(事前申込不要)

発表団体

	団体名・代表	プログラム名
1	八重山高原星物語 2017 学生運営委員会 代表 理学部 石崎滉也	八重山高原星物語 2017
2	T-land KUFSA 代表 農学研究科 小森健太	留学生+日本人学生による種子島の Inbound 活性化および地域資源発掘調査
3	グルーロ 代表 教育学部 安山香穂	西出水!なこよかひっとべ応援隊(略称:西出水応援隊)(仮)
4	ヤマケン 代表 理工学研究科 長濱 匡	ベル活(ベルマークにすればトナーカートリッジを離島教育教材にできる説)
5	KAGOらぼ 代表 法文学部 森下彩絵	かごんまよかところプロジェクト

◆お問い合わせ先◆

鹿児島大学 研究推進部 社会連携課 課長代理 永徳

T E L :099-285-3640

E-mail:sharend@kuas.kagoshima-u.ac.jp

平成29年度進取の精神チャレンジプログラム地方創生活動部門成果発表会

NO	団体名	プログラム名	プログラムの概要
1	八重山高原星物語 2017 学生運営委員会	八重山高原星物語2017	八重山高原星物語は、鹿児島大学農学部附属農場入来牧場で今年度8月12日(土)に開催される科学イベントである。我々学生運営委員会と薩摩川内市で協力して実施しているイベントであり、当日は望遠鏡等の施設公開に加え、鹿児島大学及び他大学の学生や薩摩川内市の方々が多数の科学実験ブースを出展する。イベント当日に向けて我々は、科学実験ブースの出展依頼やポスター・メディア等による広報活動などを行っている。
2	T-land KUFSA	留学生+日本人学生による種子島のInbound活性化および地域資源発掘調査	鹿児島県の多数あるうちの離島の一つ、種子島に注目し、世界遺産とされる屋久島・奄美大島に匹敵するような観光資源を留学生の目線から探る。 屋久島などに比べ国際的な観光政策が満足でない種子島に外国人観光モデルとして留学生を連れていくことで島の国際観光化における課題点や改善点を見つけて出す。
3	グループ グルーロ	西出水！なこよかひつとつべ応援隊 (略称：西出水応援隊) (仮)	このプログラムでは、鹿児島県出水市にある西出水地区を、活動の拠点とする。この地区のまちづくりの中心を担う「西出水盛り上げ隊」の活動や、西出水地区のイベントのサポート・運営を行い、学生と地域住民との交流を促進する。 また、2017年6月に設立したばかりの「西出水盛り上げセンター」の活用方法を提案する。同センターのコンセプトは、『西出水っていいね』の声を作り出すこと。これを実現するため、センター内での具体的な活動づくりや、既存(実施予定)の活動の充実化を行う。
4	ヤマケン	ベル活 (ベルマークにすればトナーカートリッジを離島教育教材にできる説)	鹿児島県は、「離島関係市町村数」、「離島人口」、「離島面積」共に47都道府県で一位である。中でもカラ列島の七つの有人島では、小・中学校で子供たちが教育を受けており、村では離島教育、移住政策の充実に積極的に取り組んでいる。そこで、ベルマーク財団を通じ鹿児島大学と離島との連携を図り離島のへき地教育環境の充実と繋げる活動の実現性を検討する。
5	KAGOらぼ	かごんまよかとこプロジェクト	鹿児島大学の大学生が鹿児島県の魅力(かごんまよかとこ)を発見し、鹿児島で働くことへの関心を持つためのきっかけづくり、情報発信を地元企業などと連携しながら行う。鹿児島で働く社人と学生が話し、つながりをもつ機会をつくり、就職活動や働くことについてもっと身近に感じてもらうような場づくりとともに学生目線からの魅力的な情報発信を行う。

八重山高原 星物語 2017

八重山高原星物語学生運営委員会



目次

1. 活動報告
2. 狙いに対する成果
3. 今後の展望

1. 活動報告

～4月

- ブース出展依頼
 - ・工学院専門学校
 - ・天文協会
 - ・せんだい宇宙館
 - ・サークルなど11団体
- ボランティア依頼
 - ・純心女子短期大学
 - ・志學館大学

5月

- 学生会議(5/10)
- 第1回学生運営委員会(5/24)
- ラジオ出演依頼
- ホームページ完成



6月

- 第2・3回学生運営委員会(6/14,30)
- 第1回ボランティア講習会(6/24)
- ポスター完成
- せんだい宇宙館での学生講演(6/4)



7月～

- 第4・5回学生運営委員会(7/14,28)
- 第1回ボランティア講習会(7/22)
- ラジオ・TV出演 (FM霧島、FMぎんが、FM鹿児島、MBCラジオ、MBCテレビ)
- ポスター掲示依頼・チラシ配布
- ブース配置図作成
- 当日アンケート作成



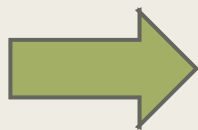
8月12日土曜日 八重山高原星物語2017当日

- 12:00～21:00 入来牧場
- アンテナツアー
- 学生、地元団体による23の実験・体験ブース
- 宇宙をテーマにした講演
- 入来特産品販売(9店舗)
- 星空観望会
- 来場者数：3800人

2. 狙いに対する 成果

狙い①
宇宙や科学、自然環境への興味関心
を深めてほしい。

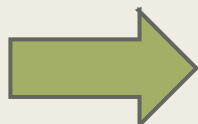
- ✓ アンテナに登ったこと、操作したことに感動した。
- ✓ ふつうにできないことを体験出来てとても楽しい。
- ✓ 望遠鏡の操作が出来て楽しかった。



アンテナツアーの効果大きい

狙い② 科学の楽しさを広めたい。

- ✓ 様々な体験・工作ができて楽しかった。
- ✓ いろいろな体験ができて子供も喜んでいました。
- ✓ 子供にとってとても楽しめる機会だと思う。

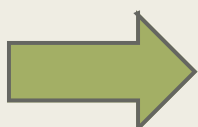


実験・工作も楽しんでもらえた

狙い③ 地域の活性化

地元の方々と協力してイベントを成功させることが出来た

- ✓ こんな場所があるとは知らなかった。
- ✓ こんなところにこんなものがあるなんて全く知らなかった。
- ✓ 県外からの来場者も（熊本、大分、佐賀、愛知など）



薩摩川内市外の方々に知ってもら
うことが出来た

学生自身の成長

学生運営委員会

- 新しい技術の獲得
(サーバー、イラストレーター・
フォトショップ)
- 予算・書類作成
- 様々な人とのやり取り
- 準備の大切さ
- ➔ イベントの企画・運営に携わる
良い経験ができた

実験ブースの学生

- 子供たちに分かりやすい説明
➔ より原理への理解を深める



3. 今後の展望

継続的な活動

- せんだい宇宙館での学生講演(3/25)
- 八重山高原星物語2018 (8/11or12)

✓ 来年もまた来たい。
✓ 毎年とても楽しみにしている。

引き続きよりよいイベントとなるよう
努力していきたい



ご清聴
ありがとうございました

T-land KUFSA

留学生＋日本人学生による種子島の
Inbound活性化および地域資源発掘調査

農学研究科 生物生産学専攻
小森 健太

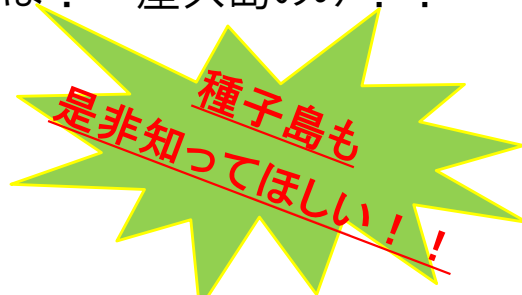
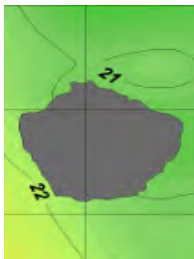
<留学を通して>

- 海外における鹿児島島の認知度⇒低



<鹿児島大学の留学生>

- 鹿児島を選んだ理由⇒自然が多い
先輩留学生のオススメ
- では鹿児島島の島とかは？⇒屋久島のみ！！



背景



- 種子島の現状として、、、
⇒特出した観光名所もない
(有名なのは宇宙センターぐらい、、、)

- ⇒外国人観光客も少なく、人口減少・高齢化
(島の活気がなくなっている、、、)



市の職員によると、
⇒**観光業の開発には、まだ開拓する余地がある！**



背景より



鹿児島大学の留学生の意見



日本の固定観念に縛られない意見



より魅力的な新しいアイデアの発見
日本人だけでなく、外国人へのアピールが可能

目的

観光資源を留学生の視点から探り、種子島の国際観光化における課題点や改善点を見つけ出す



実施日



8月：種子島訪問①(繁忙期)
10月：種子島訪問②(閑散期)

参加したメンバー

<第1回>

- Maria Binica(ルーマニア)
- Brandon Te(オーストラリア)
- Ezgi Deniz Celik(トルコ)
- Alex Pommier(フランス)
- Luca Hugo(スイス)
- Heewon Kim(韓国)
- Lin Yi Hsuan(台湾)
- Steve Cother(イギリス)
- 小森健太(日本)

<第2回>

- Jazmine(バハマ)
- Rodolfo Santigo(グアテマラ)
- Josefine Lea(ドイツ)

計： 12ヶ国12名

活動内容

①観光スポット訪問(海、宇宙センターなど)

→現在の観光業の実態の調査!



②国上地区(漁業)・安納地区(農業)の訪問

高校生や地元の人々との交流

→地域住民との交流を通じた新しい観光地の発見

及び問題点や可能性の把握

③市と留学生との意見交換

→留学生らの新しい視点からの提言



①観光スポット(ビーチ)



- 島内に数多くのビーチが存在
- サーフィン・シュノーケリング・カヤックが可能
- 安全でキレイなビーチも

⇒海外の人も楽しめるマリンスポーツが充実
どの年代でも楽しめる

①観光スポット(自然)



- 自然の風景がたくさん
- 洞窟探検やパラグライダーなどのアクティビティ

⇒ 海外の人でも楽しめる自然の風景もある
インスタなどのSNSに投稿する楽しみもある

①観光スポット(施設)



- 種子島の独特な文化や歴史を知る良い場
- 英語表記が少ない

⇒ せっかく種子島をよく知れる場があるが、
内容を理解できない

②島人との交流



- 高校生との交流及び新たな観光地探索
 - 地元の農家及び漁師との対談
- ⇒若者の意見の導入や
外国人や外国語への先入観の撤廃
農水産物の魅力や体験型フィールドワークの魅力を伝達

②新観光スポット候補(島人の紹介)



- 自然エリアのハイキングが可能
 - 200年伝統の黒糖作り体験
- ⇒自然を活かしたアクティビティへの活路
昔ながらの独特な文化の体験の魅力

②種子島の食文化



- 安納芋や飛魚など新鮮な農水産物の充実
⇒外国人も喜ぶクオリティを改めて評価

③市役所でのディスカッション

西之表市役所にて各役場の人を交えてディスカッションを行った。



ディスカッション内容

- ・交通手段の確保の困難さ
⇒公共交通機関が少ない
外国人のみではカーレンタルが困難
- ・英語表記や話せる人が少ない
⇒せめてメニューやパンフレットだけでも
英語表記のものを導入すべき
- ・バーやレストランが少ない
⇒近辺の探索や滞在時に不便が生じる
⇒外国ではベジタリアンの方も多く、野菜のみの
料理が少なく不便

種子島視察後の活動(視察中も含む)

- ・各国の言語でSNSに感想や魅力を毎日投稿
- ・種子島の魅力を載せたウェブサイトの英語版を導入
(<http://tane-life.jp/>) 協賛:TGI
- ・ガイドプランの作成及び導入
(TGIへアイデア提供)





今後の活動



- 新たなKUFSA(鹿児島大学留学生会)や留学生会館チューターによるプレゼン
⇒H30年の新規留学生に種子島の魅力を伝え、KUFSAの新たな活動として訪問する
- 新たな体験型アクティビティとして、サトウキビやトウガラシの農業体験などを行う予定



ご清聴ありがとうございました。

西出水！ なこよかひっとべ応援隊

グループ
教育学部4年 吉元明子

私たち × 大学生 × 出水の大人 前回のプレゼン



出水に来てほしい！出水を知ってほしい！
地域の大人たちと連携して、何かを参画したい！

出水に興味はあるけど、交通費が重いなあ…。
授業やアルバイト以外にも何かをやってみたい



大学生に来てもらって、地域の現状を知ってほしい。
地域に住む子どもたちにもっと多くの人とのかかわりの
場を作りたい。
次世代の地域を担う若者と、何か一緒に取り組みたい！

年間実施スケジュール

日時	活動内容
8月8日	出水市内FW,意見交換
8月9日	夏休み寺子屋教室の実施—実験 スライムをつくってみよう!— 学童保育訪問、地元ヒーロー「西出水爆笑戦隊」ショー、児童との 交流
10月14日	出水市内FW,西出水マチ・テラス準備
10月15日	西出水マチ・テラス なぞときゲーム—大学生からの挑戦状—
1月5日	鬼火焚き見学、PHD協会との交流
1月28日	西出水クイズバトル—大学生からの挑戦状—
1月29日	西出水子ども食堂





地域の子どもたちとの交流



西出水マチテラス





子ども食堂



成果①心情の変化



出水の大人
面白かったなあ！

出水ってソルだけ
じゃないんだ！

子ども可愛すぎ
た！

地域の現状を
知れた！

地域の
つながりが強いな！

中長期的な活
動の楽しかった
思い出

地域の方々と協
働で活動した経
験

感情・想いの
共有

成果②: 気持ちの共有と活動の可視化



今後の課題や展望

課題

地域の大人との関係構築
 イベントなどに出てくることができない家庭もあるのでは？
 西出水盛り上げセンターの活用方法

可能性

地域でお金を組む方法を考える
 学生たちを巻き込む、単発でない活動を考える



ご清聴ありがとうございました。

[ベル活]
ベルマークにすればトナーカート
リッジを離島教育教材にできる **説**

[プログラム名]

ベル活

(ベルマークにすればトナーカートリッジを離島教育教材にできる説)

[グループ名]ヤマケン

[構成員]

長濱 匡	理工学研究科	海洋土木工学専攻	修士2年
谷川 正覚	理工学研究科	海洋土木工学専攻	修士2年
上宇都 瑞季	理工学研究科	海洋土木工学専攻	修士1年
濱添 洸也	理工学研究科	海洋土木工学専攻	修士1年

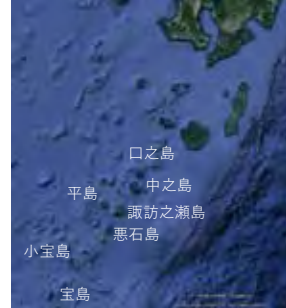
背景

鹿児島県は

「離島関係市町村数」、「離島人口」、「離島面積」とも
に47都道府県で1位



鹿児島振興を進める上で離島振興は重要



図：十島村[七つの有人島] (google mapより)

十島村(トカラ列島)の七つの有人島では、小・中学校で子供たちが教育をうけており、
村では離島教育、住民政策の充実に積極的に取り組んでいる。



教育関連で何か大学から援助することはできないか

ベルマーク活動を通じて鹿児島大学から支援のシステムをつくりたい

ベルマークとは

ベルマーク活動

「すべての子どもに等しく、豊かな環境のなかで教育を受けさせたい」



資金(ベルマーク預金)で学校の設備や教材をそろえ、教育を支援

何とベルマークを交換するか

カラー・トナーカートリッジ



鹿児島大学内の印刷機で
大量に消費されているはず

カートリッジの種類	ベルマークポイント
カラーカートリッジ	5点
トナーカートリッジ	50点

[ベルマーク教育助成財団HP](#) より

対象のプリンター

現在、印刷機メーカー3社がベルマーク回収プログラムに参加している

Canon

EPSON

brother

～Canonの例～

回収対象: キヤノンブランドの使用済みカートリッジ

※キヤノンブランド以外のカートリッジおよびリフィール(再生/改造)されたカートリッジは、回収対象外



トナーカートリッジ



カラーカートリッジ

Canon HPより

実施例 ～北海道大学(女性研究者支援室)～

ポスターでの呼びかけ



回収箱設置・トナー回収



理科用品を寄贈

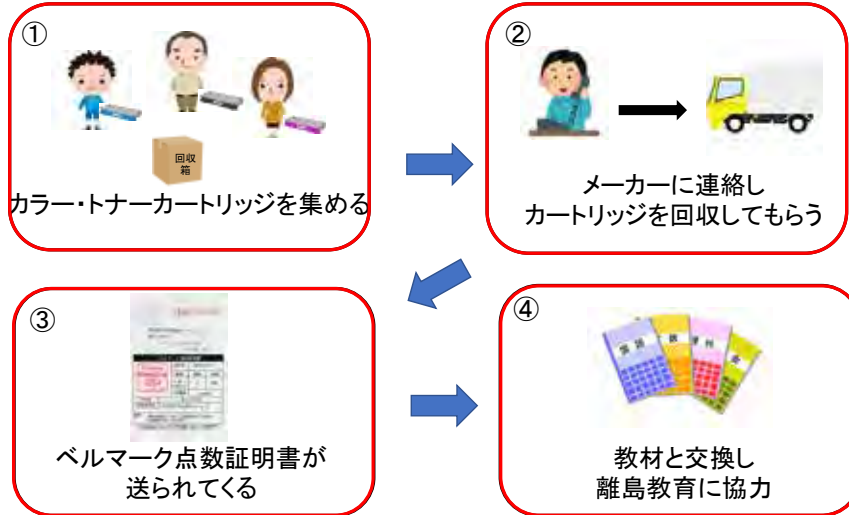


仕分け・計算・送る



北海道大学 女性研究者支援室 HPより

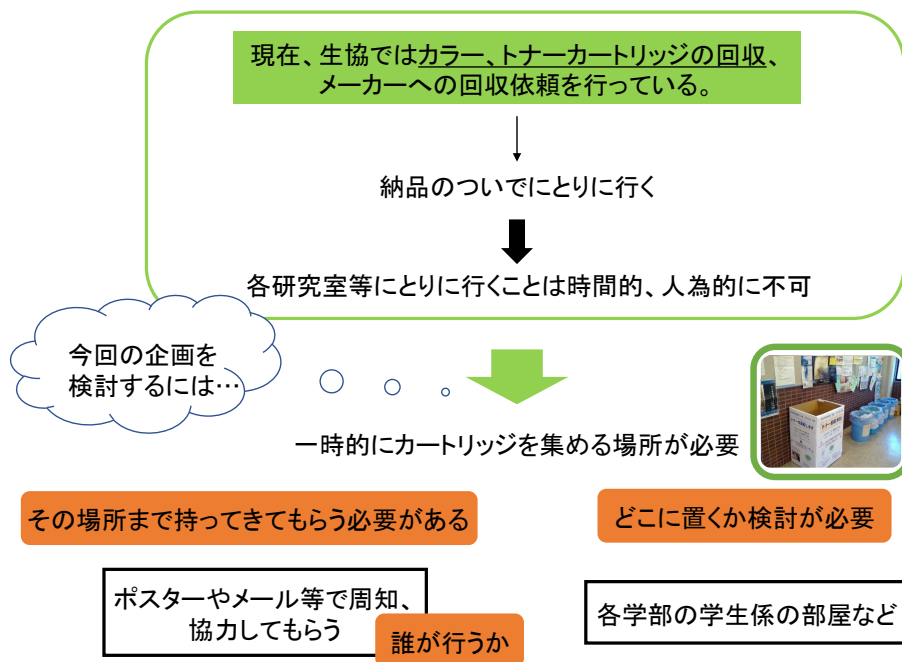
企画概要



目的

消費したカラー、トナーカートリッジを集め、ベルマークに交換し、そのベルマーク点数を学校を指定し寄贈するという一連の支援の流れが実現可能か検討する

大学内でのカートリッジの回収の現状



実施アンケート項目

・アンケート対象者

工学部、理学部、法文学部、農・獣医学部の教員



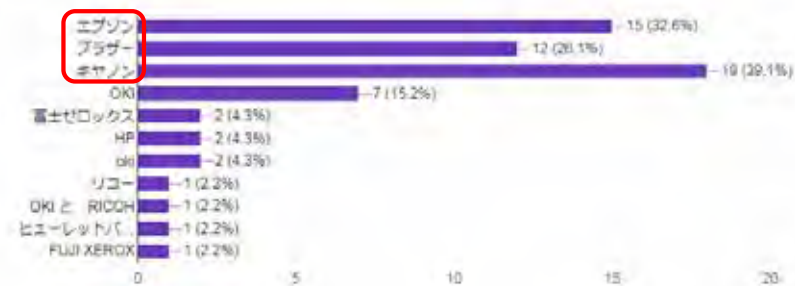
・アンケート項目

- 使用している印刷機のメーカー
⇒ ベルマークに交換できるメーカーが限られているため
- 1年間にどのくらいのトナー・カラーカートリッジを消費するか
⇒ 実際にどのくらいのベルマークに交換できるか把握する
- トナー・カラーカートリッジの現状の処分方法
⇒ トナー・カラーカートリッジを利用可能か、回収箱の置く場所の検討
- 本企画に対する意見
⇒ システムが構築された場合の協力できるかどうか

アンケート結果

問1、自室または研究室で使用しているプリンターはこのメーカーですか。

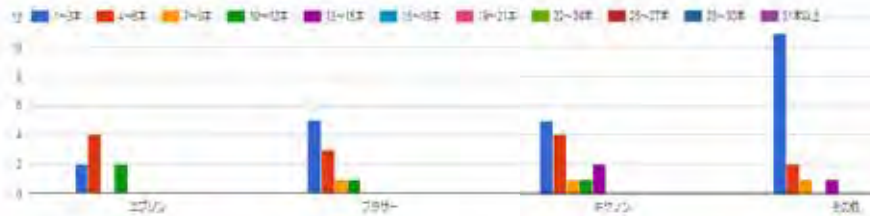
48件の回答



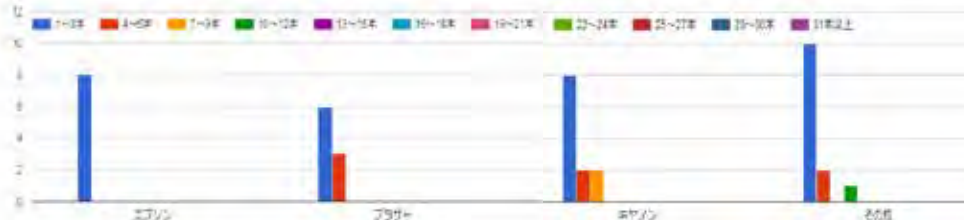
対象のプリンターの台数が多いという結果に

アンケート結果

問2. カラーカートリッジを1年間に何本消費しますか。



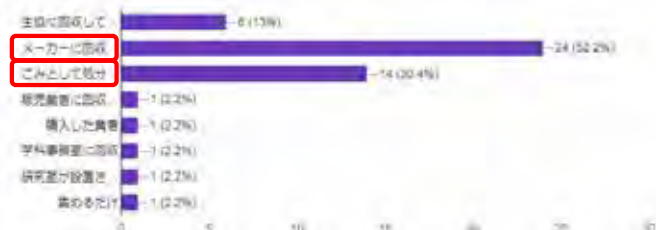
問3. トナーカートリッジを1年間に何本消費しますか。



アンケート結果

問4. 現在、使用済みカートリッジの処分方法はどのような方法ですか

※複数回答可



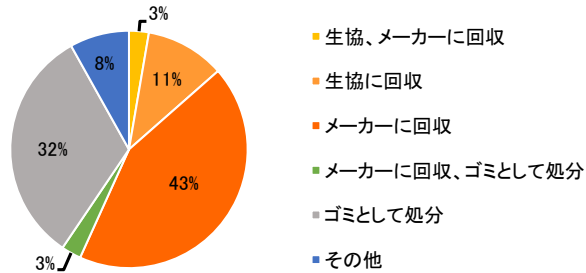
カートリッジの処分方法は多岐にわたる
[メーカーに回収]が多く、その次に[ごみとして処分]という回答数が多い

対象となるプリンターに使われている
カートリッジの処分方法は？

アンケート結果

Canon EPSON brother

対象のプリンターのカートリッジの主な処分方法



対象プリンターの有無
37件/46件中

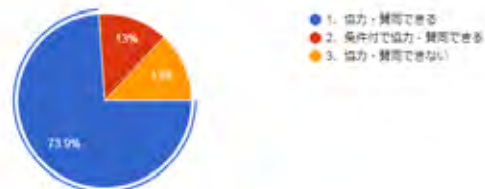
↓
対象メーカーの印刷機 45台

↓
対象のカートリッジの処分方法は生協の回収が多く、
ゴミとして処分されてきたカートリッジも多くある

アンケート結果

問5、もし、今回の目的であるシステム（皆様から使用済みカートリッジを提供してもらい、ある程度集まったらメーカーに回収依頼し、ベルマーク点数に交換。そのベルマーク点数で離島の教育へ援助する。）
* が実現可能となった場合、協力や賛同（回収箱が設置された所まで持っていき**、使用済みカートリッジを譲ってもらう、など）をいただけますか。

46件/53票



↓
多くの協力的回答を頂いた

アンケート結果

回答件数 46件

・対象メーカ(キヤノン、ブラザー、エプソン)の印刷機を持っている	45機
・対象メーカーのカラーカートリッジの消費量	198個/年
・対象メーカーのトナーカートリッジの消費量	114個/年
・現在の使用済みカートリッジの処分方法	生協に回収してもらう 5件 メーカーに回収してもらう 16件 ごみとして処分する 13件 購入業者に回収してもらう 1件 学科で集めてる 1件
・本企画に協力・賛同していただけるか	協力・賛同できる 28件 条件付で協力・賛同できる 4件 協力・賛同できない 3件

- 理由・手間がかからなければ
- ・回収しやすい場所・状況だったら
 - ・費用がかからなければ
 - ・面倒だから

アンケート結果

回答件数 46件

・対象メーカ(キヤノン、ブラザー、エプソン)の印刷機を持っている	45機
・対象メーカーのカラーカートリッジの消費量	198個/年
・対象メーカーのトナーカートリッジの消費量	114個/年



協力・賛同していただける中での

・対象メーカーのカラーカートリッジの消費量	177個/年
・対象メーカーのトナーカートリッジの消費量	108個/年



今回、支援の対象としている
+ 島村の役場へ訪問

十島村役場訪問

対応して下さった方々(2017/11/30)

有村 さん(鹿児島県十島村 教育委員会 教育長)
牧元 さん(鹿児島県十島村 教育委員会)
蔵町 さん(鹿児島県利島村 総務課)



相談内容

- 企画説明後、企画に対するの意見
- ベルマークでの支援での注意点
- 十島村において本土と離島の差とは
- ベルマークを支援する場合、どのような体制が望ましいか

離島への訪問によるアンケート実施計画を見直し。
今回、候補に上がった交換製品とアンケート結果を比較

十島村役場訪問

相談結果

- 企画説明後、企画に対するの意見
 - カートリッジがベルマークに変わることは知らなかった。
 - 穴あきパンチなど、どんな小さなものでも支援してもらえるのであればありがたい。
 - 学生がこういった企画を行なうことに意義があるのでトライしてもらいたい。
- ベルマークでの支援での注意点
 - ベルマークの集計(子供たちが集めたもの)はPTAの方々がやってくれるが骨が折れるのでポイントや教材を送ってくると助かる。
- 十島村において本土と離島の差とは
 - 買いたいときにすぐ買えないので、前もって計画的に購入しないといけない
 - 外で使うものなどは錆びるのが早い(離島の潮風か)
- ベルマークを支援する場合、どのような体制が望ましいか
 - 支援する学校を十島村のほうで順番決めし、各学校の欲しいものの希望を出してもらい大学から支援してもらえるほうが望ましい
 - 支援するものが消耗品(遊びのボール)などについては学生さんが決めてもいいかもしれない。



十島村役場訪問

具体的にどのような支援が望ましい？

穴空けパンチ

複式学級により一度に異なる学年の生徒と授業を行なうためプリント学習が多い

一輪車

錆による劣化が比較的早い

サッカーボールやドッチボール等

子供たちが良く遊ぶ消耗品

相談後アンケート結果

協力していただいた場合の年間の見積もり

カラーカートリッジ



605～885(点/年)

トナーカートリッジ



2700～5400(点/年)

カラー&トナーカートリッジ

3305～6285(点/年)

ベルマーク点数 6285点

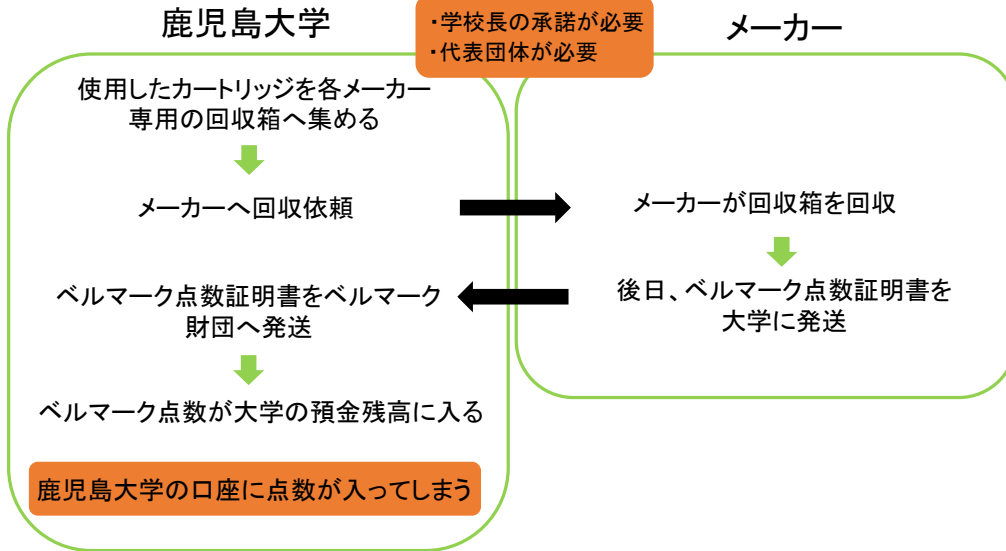


例) ・サッカーボール2個
・一輪車1台



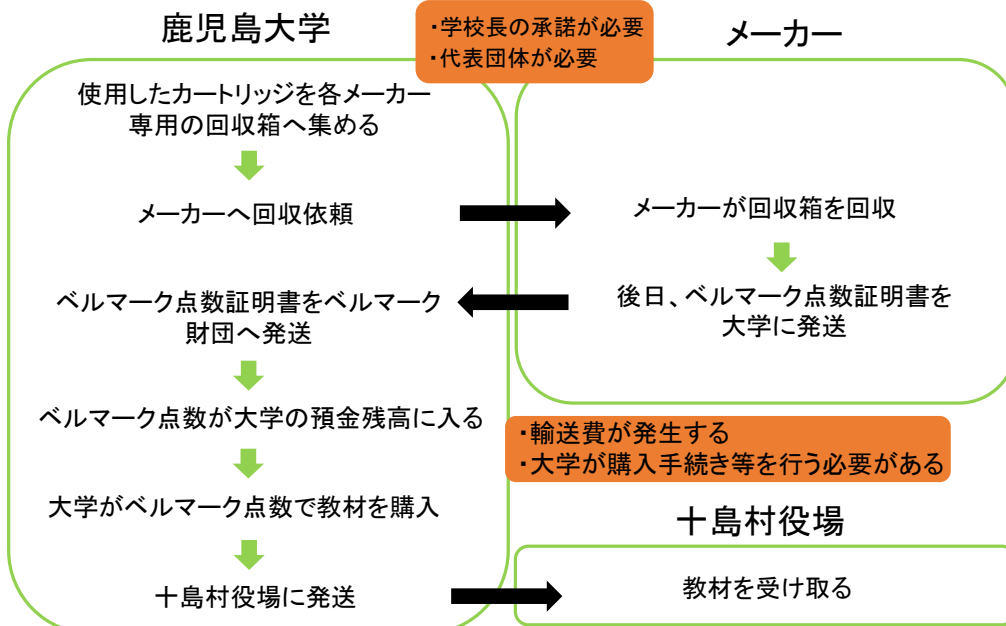
ベルマーク点数交換の流れ

ベルマーク財団へ参加登録



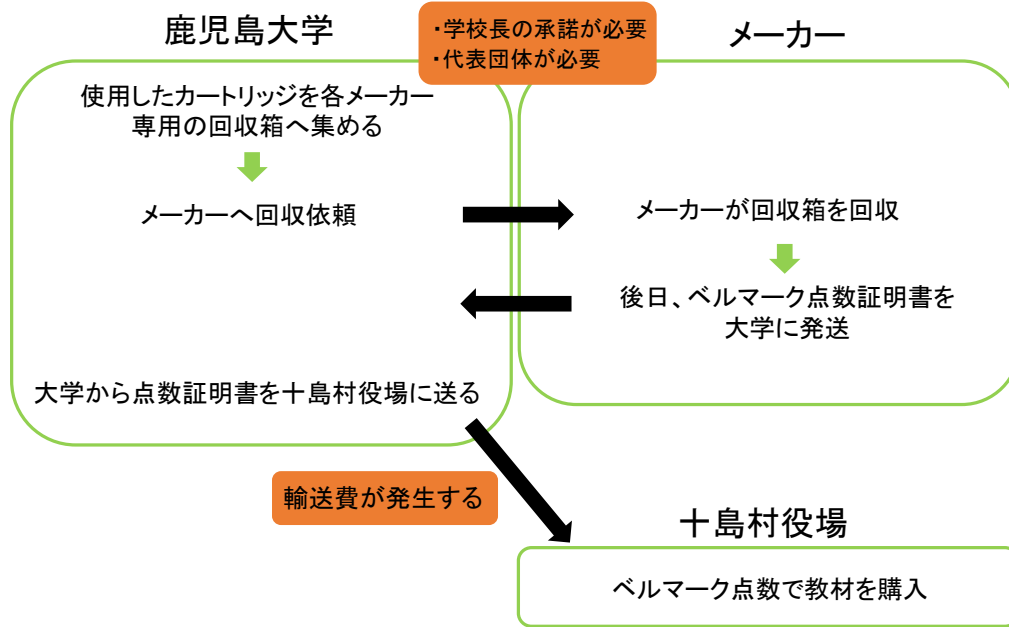
ベルマーク点数交換の流れ

ベルマーク財団へ参加登録



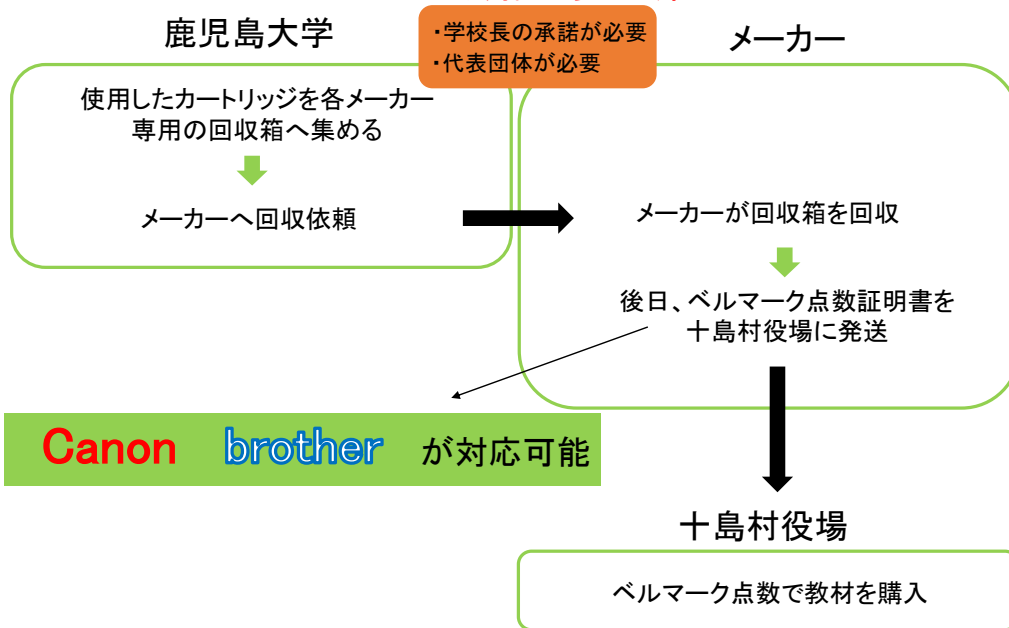
ベルマーク点数交換の流れ

ベルマーク財団へ参加登録

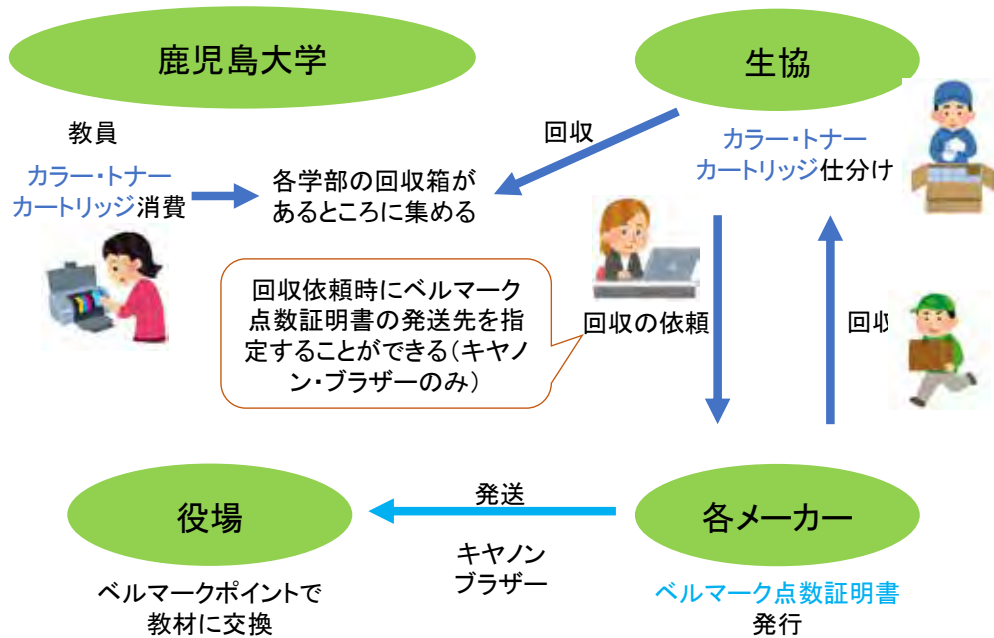


ベルマーク点数交換の流れ

ベルマーク財団へ参加登録



私たちの提案

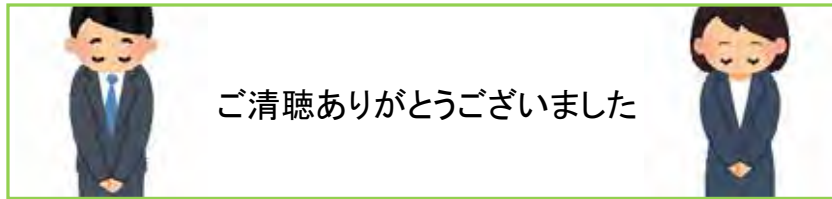


結論

- ・今回行ったアンケート結果より、一年間で鹿児島大学で消費されるカラー、トナーカートリッジから希望の製品が交換できる点数が集まる。実際はもっと多くの点数が集まる見込みがある。
- ・消費したカラー、トナーカートリッジを集め、ベルマークに交換し、そのベルマーク点数を学校を指定し寄贈するという一連の支援の流れは様々な条件があるが、実現可能である。

実現化へ向けての課題

- ・鹿児島大学でベルマーク財団へ参加登録しないとイケない。
- ・カラー、トナーカートリッジを集めるところを検討する必要がある。
- ・広告やメール等で周知、協力をお願いする。また、それを誰がどのようにするかなど決めないとイケない。
- ・鹿児島大学と生協との連携を明白にしていけないとイケない。





かごんまよかところプロジェクト

KAGOらぼ代表 法文学部人文学科3年 森下彩絵

本日の流れ

- 1.活動理念
- 2.実際の活動
- 3.振り返り
- 4.今後の展望

活動理念

背景

- ▶ 県内企業（県内の社会人）と学生の
ギャップや壁を感じた
- ▶ そもそも、鹿児島で働くことを考えていない、興味がない人がいる...

活動理念

社会人と学生の
区切りや壁をなくし、
学生の中に
鹿児島で働く選択肢を創出する

活動計画

県内就業魅力発信誌

- ▶企画MTG (8月～)
- ▶取材先の選定アポ取り (10月～)
- ▶取材・撮影 (10月・11月)
- ▶記事作成・推敲 (12月)
- ▶完成次第、配布 (1月)

キャリア支援系イベント

- ▶企画MTG (9月～)
- ▶社会人の選定とアポ取り (9・10月～)
- ▶第1回イベント開催 (11月25日)
- ▶第2回イベント開催 (12月13日)
- ▶第3・4回イベント開催 (1月13・14日)

昨年からの改善点の検討

県内就業魅力発信誌

キャリア支援系イベント

コンテンツ
の充実

デザインの工夫

内定者の参加

自由な交流
時間の設定

配布先を増やす

イベントの
ゲストを掲載

積極的な広報

ゲストの選定

メンバー・連携

▶今年度のメンバーは**11人**

鹿児島大学 **5名**を中心に、

鹿児島国際大学 **2名**、鹿児島純心女子大学 **2名**

鹿児島県立短期大学 **1名**、北九州市立大学 **1名**

▶**連携・協力**

COC+推進部門 牧野先生（アドバイスなど）

株式会社プロゴワス（印刷、イベント開催）

POOL 福元りえさん（冊子デザイン）

県内企業、社会人の方々（冊子やイベント協力）

実際の活動

私達が行った活動

○県内就業魅力発信誌

「かごんまが人 ver. 2」の作成



○キャリア支援系イベント

「かごんまのHOTな先輩とkataruba」



かごんまが人の作成

- ▶ 様々な切り口で県内企業や県内で働く魅力を伝える
- ▶ 県内企業人6人を掲載
- ▶ 企画、取材、写真撮影、記事作成など全てメンバーで分担して実施
- ▶ 全24頁、600部作成



かごんまのHOTな先輩とkatarubaの開催

▶ 学生と社会人が和気あいあいとした
雰囲気の中で対等につながる場



▶ 全4回で構成。

詳細については添付資料参照。

▶ 内容として自己分析、内定者と話す、
大事にしたいことの言語化など



イベントの概要

日付	場所	テーマ	概要	参加人数
2017年 11月25日	鴨池公民館	自己分析	人生グラフを作成し、それをもとに自分の人生について話してもらい、フィードバックをもらう	14名
2017年 12月13日	Partydoll HINATA	企業研究	プロゴフス主催。県内企業の人事・新人との本音トークなど	33名
2018年 1月13日	ソーホー 鹿児島	価値観の 言語化	自分が大事にしていることを対話の中で出てきたワードを使って1文にしてもらう。	11名
2018年 1月14日	鴨池公民館	内定者と話す	内定者に質問したり自由に話したりし、就活仲間や相談できる先輩とつながりをもってもらおう。	16名

参加者の声

▶学生

- ・鹿児島をもっと好きになった！ **こんな人達と働いてみたい。**
- ・タイトル通り、HOTな先輩と**フラット**にお話ができ、
つながりをつくれた。
- ・就活や自分について、モヤモヤしていたものが少しなくなった。

▶社会人

- ・ **学生のために何かヒントになること**が話せたら良いと思って参加した。
- ・ 学生が**何を考えているのか**参考になった。

振り返り

事業の評価

- ▶かごんまが人は完成予定がずれたが、イベントは4回**全て実施**できた。
- ▶県内の社会人と学生を**対等な立場**で、**和気あいあい**とした良い雰囲気の中でつなげることができた
- ▶県内就業に興味をもってくれたり、**公務員志望の人が県内の企業に関心**をもったりというような変化も見られた。
- ▶参加者の感想や反応からは、**理念の実現に少しでも近づけた感触はあったもの**の、**変化の度合いがわかるアンケート**を作成できなかったのは反省点。

広報の強化



**学生団体交流会
参加**



メディア出演



**学生団体総選挙
出場**



**地域キャリアデザイン
での活動報告**



**170人未来会議
登壇**



**チラシ・SNSなど
での宣伝**

メンバーの成長

▶続けることは確かに難しかった。

⇒メンバーのモチベーション、MTGで意見が出ない...

▶乗り越えると、「もっとこうしよう」がたくさん出てくる

⇒想いや目的、活動内容の**ブラッシュアップ**、広報の方法など

だんだん良いものになるワクワク感！

前年度のことを活かしつつ、

よりよいものを皆でつくっていくことができた。



今後の展望

▶来年度の継続的・発展的実施の検討

【人材】**新メンバー**の募集と確保

【内容】高校生や社会人などを巻き込む

【資金】自律的な活動

▶**WEBメディア**のさらなる活用

⇒WEB版かごんまが人など

▶他の学生団体・Ten-labなどとの**コラボ**

⇒一緒にイベント企画をする



ご清聴ありがとうございました

平成29年度 鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム

『地方創生活動部門』 成果発表会開催

鹿児島大学は、2月27日に進取の精神チャレンジプログラム「地方創生活動部門」成果発表会を開催しました。

本チャレンジプログラムは、平成25年度から実施し、学生自らが企画・運営・実施する様々な活動に対して支援を行うもので、平成28年度からは学生が県内自治体や企業などと連携した地域貢献活動を支援するため、「地方創生活動部門」を新たに創設し、平成29年度は5プログラムが採択されました。

成果発表会には、45名（自治体から6名含む。）が参加し、種子島、トカラ列島等の離島の活性化に繋げる取組や地元就業率向上に向けた取組等の発表があり、団体名「KAGO らぼ」が実施したプログラム『かごんまよかここプロジェクト』に最優秀賞、他の団体には優秀賞が授与されました。最後に学長から、企画力溢れる取組に対して謝辞が述べられました。



写真上：発表風景（KAGO らぼ）

写真下：受賞者との記念撮影

平成29年度「鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム」募集要項

1. 進取の精神チャレンジプログラムとは

本プログラムは、鹿児島大学学生憲章（平成22年11月15日制定）の趣旨に則り、学生自らが企画・運営・実施する様々な活動の支援を通じて困難な課題に果敢に挑戦し、実践していくことによって鹿児島大学（以下「本学」という。）における進取の精神を継承することを目的としています。

地域貢献を標榜する大学として、学生の皆さんにも鹿児島県内自治体や企業などと連携した地域貢献活動を展開していただきたいと考え、昨年度、本プログラムに「地方創生活動部門」を追加しました。

まずは、皆さんが現在取り組んでいる活動や興味・関心のあることを切り口に企画し、本プログラムに応募してみませんか。意欲とアイデアさえあればOKです。採択されたプログラムには予算の範囲内で支援します。ぜひ、この機会にチャレンジしてみてください。

2. 募集企画

〈一般部門〉

募集テーマ	内 容
チャレンジ鹿児島大学	【大学の活性化】 (例) ・学内の環境改善（美化）活動 ・学内資源の利用促進活動 ・大学情報の発信 ・障がい学生の支援 ・大学グッズの開発 など 【国際交流】 (例) ・留学生との共同研究活動 など

〈地方創生活動部門〉

募集テーマ	内 容
まち・ひと・しごと創生	【鹿児島県内自治体の地域課題】 (例) ・魅力ある観光資源の発掘とPR戦略の提言 ・商店街の賑わい創出への支援 など 【鹿児島県内企業等の課題】 (例) ・製品の販売戦略の提言 など

※採択件数は、「一般部門」5件程度、「地方創生活動部門」5件程度を予定しています。

(参考) 採択プログラム一覧

平成26年度

〈公募部門〉

- ・AIRA Peoples Collection (略称: APC)
- ・鹿児島大学ブランド創出【パッションボーイズ農園 学生経営プロジェクト】
- ・大野の開拓魂 ～棒踊りの継承そして伝承へ～

〈自由部門〉

平成27年度

〈公募部門〉

- ・図書館サポーターの活動によって、学生の図書館利用を活性化し、学びを深め
- ・ものがたりのある、ものづくり ～『あいら』には『あい』がある～
- ・八重山高原星物語2015
- ・咲いた！咲いた！プロジェクト“F”
- ・NHK学生ロボコン出場に向けた空気圧アクチュエータの開発
- ・IT革命 at 鹿児島 ～あっと驚くプログラミング言語～

〈自由部門〉

平成28年度

〈一般部門〉

- ・協働・交流・連携する図書館サポーター活動
- ・鹿児島大学宇宙開発プロジェクト
- ・熊本地震被災地復興支援 ～ボランティアツーリズムで繋ぐ九州～
- ・鹿児島大学郡元キャンパス内植物園のパンフレット作成と利用促進
- ・鹿児島大学ノベルティ「Kホルダー」
- 〈地方創生活動部門〉
- ・“かごんまのよかところ発信”プロジェクト
- ・鹿児島の魅力をPR動画で発信プロジェクト！
- ・八重山高原星物語2016
- ・大学生と徳之島小・中学生、高校生の交流ツアー ～島っ子に誇りを～
- ・鹿大×企業×地域「パッションボーイズ農園」～国際協力を目指して～
- ・薩摩トウガラシのブランド化
- ・ウミガメが種子島を盛り上げる
- ・鹿児島発！学生主導によるグローバル人材地元定着支援プログラム

3. 応募資格・条件等

■応募資格

本学の学部学生及び大学院生で、個人又はグループとします。
また、学生が主体であれば教職員と連携して応募することも可能です。

■応募条件

- ①卒業論文、卒業研究で取り組む内容のものは含みません。
- ②実施期間内に終了できる単年度企画とします。ただし、複数年を要する企画の継続申請も可能とします（継続理由を明記すること）が、次年度の予算を確約するものではありません。
- ③「地方創生活動部門」については、課題解決に向け、自治体等と協働して活動する企画とします。
- ④物品、施設等については、貸与（借用）を原則とします。（次項を参照）

■貸与可能物品（備品）の取扱い

貸与可能物品（備品）は、ノートパソコン(5台)、プリンター(1台)、ビデオカメラ(5台)、デジタルカメラ(4台)、カメラ用三脚(4脚)、タブレット(1台)、レーザーポインター(1個)、浴衣(10枚)。

大学の貸与物品以外の備品を購入した場合は、プログラム終了後速やかに大学に返却していただきます。

※備品とは、耐用年数が1年以上で、かつ、取得価額が概ね1万円以上の物品とします。

■支援予定額

1件につき上限20万円

■購入できないもの

上記の貸与可能物品（備品）、トロフィー、楯、金券・図書券等換金性の高いもの、お土産代、飲食代、自家用車のガソリン

4. 応募方法

所定の様式による企画書及び必要経費内訳書に必要事項を記入の上、6月23日（金）までに学生生活課に提出してください（様式は本学ホームページからダウンロード可）。

5. 審査方法

- ①審査委員会を組織し、書類審査及びプレゼンテーションによる審査を行います。
- ②審査結果は、企画書に記載のメールアドレスに通知します。

6. 成果発表

本プログラムの成果は、別途成果発表会において報告し、優秀なプログラムは「表彰」を行います。

7. スケジュール(平成29年度)

◆応募受付期間	6月1日（木）～6月23日（金）
◆審査期間	6月26日（月）～7月21日（金）
◆結果発表	7月下旬
◆プログラム実施期間	採択後～1月末日
◆成果発表会	2月下旬予定

8. 問い合わせ先

〈一般部門〉学生部学生生活課学生企画係（共通教育棟1号館 1階）
専門職員 鮫島 TEL099-285-7320

〈地方創生活動部門〉研究推進部社会連携課（産学官連携推進センター棟1 2階）
課長代理 永徳 TEL099-285-3640

